

中部初のドルビーシネマが誕生 世界一のクオリティとホスピタリティ目指し



なみいる興業会社を上回り、昨年も興行収入全国第二位となった中日本興業株式会社（名古屋市・服部徹代表取締役）。同社が、株式会社松竹マルチプレックスシアターズ（東京都中央区）と共同経営する名古屋駅前の「ミッドランドスクエアシネマ」に、中部地区初となるドルビーシネマが導入され、「究極のシネマ体験」が提供されることになった。

公開を前にした12月18日のドルビーシネマの内覧会で、「名古屋駅前に65年にわたり映像文化をお届けしている弊社の使命として、最高の映画鑑賞環境をとドルビーシネマを導入しました」と語った同社の服部社長。「本気で世界一のクオリティとホスピタリティを提供できるシアター創りを目指しています。必要なコストはしっかりかけました」と胸を張った。

映画公開日をにらんで 進められた大工事

ドルビーシネマの工事期間は約4か月。1つのスクリーン(1館)を完全休業状態にして、「新しい技術が詰め込まれた映画館」をゼロから作りあげた。大規模な工事のコストに加えて、1スクリーンを休業させての減収を覚悟しての大きなチャレンジだった。

ドルビーシネマの導入は中部圏初。まずは、魅力を知ってもらうために、より多くの人に足を運んでもらわなければならなかった。そのため同社としては、ドルビーシネマにとって最強のコンテンツ「スター・ウォーズ/スカイウォーカーの夜明け」の12月の公開にどうし

ても間に合わせなければならず、工事はタイトなスケジュールとなった。

昨年8月から工事を着工したものの、工事関係者から「12月20日の公開にオープンできる」という確約がもらえない状態が続いた。同社は工事を間に合わせるため奔走し、関係企業各社の多大な協力を得て、ぎりぎりの日程でようやく完成し映画公開となった。

オープニング映画「スター・ウォーズ/スカイウォーカーの夜明け」は、通常バージョンの上映もあるものの、ドルビーシネマバージョンから座席が埋まっていく現象が起きた。「狙い通りというより、それ以上にお客様の期待と支持があったと実感しています。おかげさまでロケットスタートを切ることができました」と広報担当者。公開に向けて努力を重ねてきた関係者の喜びも大きかったことだろう。

注目の技術とシアターデザイン

音響装置は、より臨場感のある音響を表現するため最大64個のスピーカーが独立して駆動する「ドルビーアトモス」を採用。最先端の光学・映像処理技術を採用した「ドルビービジョ